

教育研究業績書

2024年1月29日

氏名 土屋 進一 印

研究分野	研究内容のキーワード
・英語教育学（特に教科横断型授業の実践的方法論） ・第二言語習得論(SLA)	・高校英語授業 ・教科横断授業 ・SLA ・非認知能力

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例	2021年10月 2022年10月 2023年11月	鳥取県「新しい学びの創造事業～『主体的・対話的で深い学び』教員スキルアップ事業」において指導助言者および示範授業の授業者として3年連続で鳥取県立米子西高等学校に招聘される。
2 作成した教科書、教材	なし	なし
3 教育上の能力に関する大学等の評価	2022年10月	西武学園文理中学高等学校 MVP 教員受賞
4 実務の経験を有する者についての特記事項	2020年～2021年 2021年～2023年 2021年～2023年 2023年～2024年	言語習得理論に基づき、授業内で異文化理解やリスニング・スピーキング力向上に焦点を当てた教育アプローチを開発・実践【時事英語】 言語習得理論に基づき、授業内で4技能を統合する授業アプローチを開発・実践【英語コミュニケーション】 言語習得理論に基づき、授業内で「話すこと」（やり取り・発表）と「書くこと」の向上に焦点を当てた教育アプローチを開発・実践【論理・表現】 新コース「グローバル総合クラス」の立ち上げに関わり、英語のカリキュラム作成を担当
5 その他	なし	なし

職務上の実績に関する事項

事項	年月日	概要
1 資格、免許	1997年3月 1997年3月 2003年3月 2003年3月 2016年11月	中学校教諭一種免許状（社会） 高等学校教諭一種免許状（公民） 高等学校教諭一種免許状（地理歴史） 中学校教諭一種免許状（英語） 高等学校教諭一種免許状（英語） 中学校教諭専修免許状（英語） 高等学校教諭専修免許状（英語） 実用英語技能検定（英検）1級合格
2 特許等	なし	なし

3 実務の経験を有する者についての特記事項	2019年4月～2023年3月	西武学園文理高等学校英語科教科長（教科主任）として教科会議や校内研修で、英語科の目標や方針を明確に伝え、教員のモチベーションを高めるためのリーダーシップを発揮した。
4 その他 授業撮影動画 授業撮影動画 授業撮影動画 授業撮影動画 授業撮影動画 講演撮影動画 授業撮影動画	2023年9月 2023年5月 2022年9月 2020年6月 2020年6月 2019年10月 2018年7月	Google Workspace を「どのタイミングで」「どのように」使うか ～授業の効果を高める3つの活用事例 [英語] (Find!アクティブラーナー) 「教科横断型授業：英語×日本史～紙幣で学ぶ日本の歴史と英語の仮定法」(Find!アクティブラーナー) 『VIEW next』高校版 2022年度4月号【誌面連動】 「他教科の学習内容を英語で学ぶ授業で、生徒の思考を深め、複眼的な視野を養う」(ベネッセ) 「教科横断型授業：英語×数学～"set"で深める集合・部分集合～」(Find!アクティブラーナー) 「教科横断型授業：英語×物理～"speed"と"velocity"の理解への「加速」」(Find!アクティブラーナー) 「第8回アクティブラーニングフォーラム in 福島」(講演) (Find!アクティブラーナー) 「教科横断型授業：英語×生物～つながることのUMAMI～」(Find!アクティブラーナー)

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1 『英語教育 10月号』「教科横断的な視点に立った言語能力を育成する英語連携授業」	単著	2021年10月	大修館書店	新学習指導要領の視点に基づき、物理×英語および数学×英語の教科横断的な授業実践例を提案している。物理×英語では、速さと速度の違いを通じて加速という概念を理解させ、日常言語と物理学的な背景を関連付けることで言語能力を向上させる取り組みを紹介。数学×英語では、数学の集合概念を通じて英語表現を学ぶことで、異なる学問領域の共通点を発見し、高次の認知能力を育むことを強調している。
2 『英語教育 1月号』「教室での「マシユマロチャレンジ」を通して得た学びと今後の教育のあり方」	単著	2020年12月	大修館書店	「マシユマロチャレンジ」と呼ばれる活動を通じて、チームワークやコミュニケーション能力について述べている。実施された2時間の授業では、教科書の読解やTEDトークの視聴を通じて活動を深く理解し、学習者が体験と知識を結びつけることで、深い学びを得た。
3 『英語教育 10月号別冊』「双方向のやり取りを活かした高校でのオンライン授業」	単著	2020年10月	大修館書店	オンライン授業・動画配信において、限られた時間で有益な学びを提供する効果的な方法について言及している。対面式授業とは異なり、効率的な板書の代替手段や画像の充実など、オンラインならではのメリットを生かして授業を提案している。
4 『英語教育 8月号』「緊急事態宣言下で英語授業はどのようにおこなわれたか」	単著	2020年8月	大修館書店	緊急事態宣言下での試行錯誤を通じて、オンライン授業の構築に焦点を当てている。初期対応ではWEB学習サービスを利用し、その後オンライン授業への切り替えを模索。主に「リアルタイム型」「オンデマンド型」「課題付き動画配信型」の3種類のオンライン授業形態を導入。授業動画やGoogle Meetを活用して、双方向性を保ちながら効果的な学びを提供している。音読テストやプレゼンテーションなど、オンラインならではの新たな取り組みも挙げられている。
5 『英語教育 6月号』「主体的で深い学びを促す英語プレゼンテーション授業」	単著	2019年5月	大修館書店	高等学校の英語授業における年次ごとのプレゼンテーションを通じた生徒の英語力向上と主体的な学びの促進に焦点を当てている。テーマは日本文化や世界の問題に関連し、周知な準備と双方向の取り組みを組み合わせ、生徒の人前で話す度胸や準備力、主体性の向上を図る効果が期待できる。
(学術論文)				
1 An Empirical Study of Syntactic Complexity and Sentence Processing in Japanese EFL Learners	単著	2005年2月	法政大学大学院人文科学研究科修士論文	心理言語学におけるガーデンパス文の再分析処理について日本人学習者を被験者として検証した。その結果、統語的に複雑な文構造を持つ文の再分析処理は、談話情報の影響は受けず、統語そのものの理解が大切であることが検証された。このことから、実際の教育現場では、複雑な構造を持つ文処理の指導は、文脈を手がかりとする指導よりも統語そのものの指導が重要であることが示唆された。

(その他)					
1	「未来を拓く英語教育: 新学習指導要領に基づく授業実践」	単著	2024年1月	一般財団法人英語教育協議会 ELEC	2022年に導入された新学習指導要領の影響について実際の教育現場での状況を述べている。主体的・対話的な学びへの転換と評価方法の変化が顕著であり、指導は言語活動を通じた実践的コミュニケーション能力の育成に焦点が当てられている。教師は学習の質を高めるために探究的な視点と教科横断的なアプローチを取り入れる必要性も説いている。
2	「理数探究×英語ニュース: 興味・関心を喚起する」	単著	2023年10月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.21	近年の教育の要請に応じ、理数探究と英語ニュースを組み合わせた実践的な指導に焦点を当てている。理数探究は、問題解決や実験を通じて科学的な探究と数学的思考力を育む科目であり、英語ニュースは言語スキル向上と世界の問題への理解に寄与する。授業では、ジグソー法を用いて生徒が科学への新たな視点と英語を学ぶ真の目的を獲得した。
3	「非認知能力を育む英語授業実践例」	単著	2023年9月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.20	近年、注目を集める非認知能力は、従来の認知能力と異なり、積極性や粘り強さなど数値難測な能力を指す。小塩悦郎(2021)によれば、①誠実性から⑩エゴ・レジリエンスまで15の要素に分類され、その特徴や測定方法、教育への影響が詳述されている。本論文では、これらの要素を4つのカテゴリーに再編し、具体的な実践例を紹介している。例えば「マシュマロチャレンジを取り入れた授業」や「SDGsを活用した英語プレゼンテーション」などの事例を通じ、非認知能力の要素がどのように育成され、生徒の成長に寄与するかを詳細に論じている。
4	「新学習指導要領に基づいた3つの指導実践例」	単著	2023年8月	関東甲信越英語教育学会	新学習指導要領に基づく3つの指導実践例を報告。①パフォーマンス評価では技能統合を強調。②教科横断的な視点では古文と英語を結ぶ授業を紹介。③授業におけるICT活用も取り上げられた。
5	「スピーキング力を磨く! 英検面接指導で得た効果的な指導のヒント」	単著	2023年7月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.19	英検の面接指導について、実際の英検準2級・2級の面接指導を通して得たスピーキング指導のヒントを詳述している。通常の授業の視点として、音読、内容理解のQ&A、Story Retelling、Critical Thinkingなどが挙げられ、それぞれの指導ポイントを挙げている。
6	「ChatGPTと英語教育の未来—AIがもたらす驚きの効果と学びの変革—」	単著	2023年6月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.18	AIの進化が特に注目される中、ChatGPTが先進的な言語モデルとして英語教育に与える影響に焦点を当てている。ChatGPTは自然言語処理の学習モデルであり、リーディング、ライティング、スピーキング、リスニングなどの英語スキル向上に新たな可能性をもたらす。ChatGPTを活用することで、4技能の統合が促進され、生徒の学習体験が向上することが期待される。

7	「教科横断による新しい入試への対応 -早稲田大学政治経済学部 総合問題へのアプローチ-」	単著	2023年 5月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.17	急速な社会変化に伴い、社会で生き抜くための求められる人材像が変化していることを指摘し、その中で早稲田大学政治経済学部の総合問題が先駆的なメッセージを提供している。論文は 2022 年度の入試問題に焦点を当て、アドミッションポリシーと入試問題の関連性を明らかにする。総合問題への高校授業の対応として、英語、数学、教科横断的なアプローチの重要性が強調され、学習者が問題に対処するための戦略や解法が提案されている。特に、英語教師と数学教師の連携を通じた教科横断的なアプローチが学習者の理解を深める効果が示唆されている。
8	「学習者エンゲージメントを高めるには」	単著	2023年 5月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.16	近年、教育界では「エンゲージメント」が注目されており、学習者と教師の関係にも重要性がある。学習者エンゲージメントは認知的、感情的、行動的の 3 つのタイプに分かれ、学習活動に積極的に参加する状態を指す。エンゲージメントの土台として、学習者の成長マインドセット、教師と生徒の信頼関係、ポジティブな学習者集団と教室文化が挙げられる。これを促進するためには、成功体験の提供や教師と生徒の信頼関係構築が必要であり、教室内のコミュニケーション活性化も重要である。
9	「導入 1 年目の「論理・表現」を指導して見えたこと」	単著	2023年 4月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.15	2022 年度の新学習指導要領で導入された「論理・表現」の授業を振り返りつつ、自身が提唱した「論理・表現の授業で大切にしたい 3 つのこと」の枠組みに基づき、1 年間の指導を検証する。具体的なポイントとして、(1) 具体的な場面での指導、(2) 相手への論理的な伝達、(3) 発信のための文法力の育成が挙げられ、教科書の Task や Model Dialogue の活用法についても述べられている。また、評価においては、定期考査や学びに向かう力を促進するための工夫が取り入れられ、パフォーマンス評価にも焦点が当てられている。指導実践を通じて、生徒が英語を「使う」ことを支援し、今後の改善点を見据えた振り返りが行われた。
10	「東京大学の入試問題から見る現代社会」	単著	2023年 3月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.14	東京大学の入試問題を通じて、現代社会の特徴を分析している。入試問題から見える 2 つの特徴は、「未来予測」と「現代社会との重なり合い」である。2011 年度の英語問題は、新型コロナウイルスやロシアのウクライナ侵攻を的中させ、東大が未来を的確に予測していることが示唆される。また、2022 年度の問題は、食の問題やジェンダーの多様性を取り上げ、現代社会の課題を反映している。これらの入試問題は、現代社会の抱える諸問題を正確に捉え、未来の世界への洞察を与えている。

11	「受験期における『読解力と表現力を高める SDGs 英語長文』を用いた指導例」	単著	2023年3月	三省堂ホームページ	近年、SDGs は学校教育において重要視され、英語教科書もその内容に基づく題材を増やしている。本論文では、SDGs を中心に据えた英語長文教材の指導例を提案している。例えば、Water Crisis や Palm Oil を取り上げ、導入の追加発問を通じて世界情勢との結びつきを生徒に理解させ、リーディングスキルの向上を図る。このようなアプローチを通じて、SDGs を通したリーディングおよびライティングスキルの向上を目指している。
12	「共通テスト試作問題の着眼点と指導への示唆」	単著	2023年2月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.13	本論文は、新学習指導要領の影響と共に、令和7年度の共通テスト試作問題の内容変更に焦点を当てている。問題作成方針の考察から、コミュニケーションと統合的な言語活動が重視される傾向が見受けられる。新科目「英語コミュニケーション」と「論理・表現」の内容が反映され、リーディングやリスニングの設問が多様なコミュニケーション場面を想定したものになっている。設問と授業の整合性や実践的な指導方法の提案を通じて、共通テストへの適切な対応が示唆されている。
13	「ICT を活用した『Revised ELEMENT III』の授業」	単著	2023年2月	啓林館ホームページ 授業実践記録	受験期の英語授業において ICT を活用する具体的な実践例を提案している。ICT の利点として、画像や動画の使用が挙げられ、それによって単語学習や文脈理解が向上することが期待される。また、特定の授業『Revised ELEMENT III』Lesson 7 と Lesson 4 に焦点を当て、それぞれの授業においてどのように ICT を導入し、生徒の英語理解を深めたかを詳細に解説している。これにより、ICT が英語学習において生徒の興味や理解を高め、受験期の授業をより効果的にする手段となり得ることを示唆している。
14	「入試問題を用いた生物×英語の教科横断型授業—ジグソー法を用いた受験期のリーディング指導—」	単著	2023年1月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.12	新学習指導要領に基づく高校外国語の学習評価に焦点を当て、高校3年生の受験期におけるリーディング指導を報告している。指導では、ジグソー法を用いた「読むこと」の指導で、4つの動物テーマの英文をグループごとに分担し、主体的な学びを促進した。また、生徒が自ら質問し、要約し、意見を述べるスキルを養成した。異なる教科の教員が協力し、教科横断的なアプローチで深い理解を促進させる1つのモデルを示している。
15	「高校教師が中学英語の指導を通して気づいたこと」	単著	2022年12月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.11	2021年度から新学習指導要領が中学校で導入され、その変化に対する高校教員の意識について検証した。筆者は中高一貫校の教員として、中学3年生の授業を担当し、具体的な事例を通じて新指導要領の影響を考察した。英語教育では、語彙増加や高校レベルの文法追加が顕著であり、特に関係代名詞の指導では教科書のアプローチの変化に戸惑いを感じた。また、思考力・判断力・表現力を育むための工夫や SDGs の導入による人間性教育の重要性も指摘した。具体的な教材例を通じて、指導上の課題や生徒へのアプローチについて提案した。

16	「ICT を活用し生徒が生き活きと活動できる英語授業」	単著	2022年11月	東京書籍 E ネット 英語実践事例 シリーズ No.10	Google Workspace を基に、端末を使った4つの授業実践例を提案している。具体的なICT活用として、①Jamboard を用いた思考整理、②Google Sheets での一斉英作文、③Google Document の音声入力による音読練習、④Google 翻訳を活用したライティングを紹介している。
17	『『源氏物語』「桐壺」を用いた古文×英語の教科横断型授業」	単著	2022年9月	数研出版 『 CHART NETWORK 98号』	本研究では、新学習指導要領の視点に立ち、言語活動を通じた読解力や語彙力の育成を教科横断的に取り入れる授業を紹介する。『源氏物語』「桐壺」の原文と英訳を比較し、生徒に資質・能力を養うことを目指す。具体的な手法として、Warm-up や Small Talk、背景知識 Quiz を英語で行い、グループワークで原文・英訳の違いを分析。最後に生徒がオリジナル英訳を作成し共有する。英語と古典の統合的な学びを通じて、生徒の文化理解と言語能力向上を促進する
18	「主体的・対話的で深い学びを促す発問中心の授業」	単著	2022年9月	東京書籍 E ネット 英語実践事例 シリーズ No.9	本論では、生徒の主体的・対話的な学びを促進するには、Q&A の発問が重要である。発問は生徒とのコミュニケーションや集団学び、言語使用体験、学習の定着に寄与し、良い発問はテーマの本質を問い、生徒に気づきを与え、意外性・多様性がある。高校英語の実例も通じ、生徒の深い理解と自己表現を育む授業づくりが焦点である。
19	「教師自身の英語力の高め方」	単著	2022年8月	東京書籍 E ネット 英語実践事例 シリーズ No.8	英語教師として、文部科学省が提案した「英語が使える日本人」育成計画に基づき、筆者の英検1級までの取得の経験を振り返り、英語教師としての必要な英語力を明示した。具体的な勉強法も提案している。英語教育者としての成長に繋がるアプローチを述べている。
20	「英語教師のための授業改善の具体的方法」	単著	2022年7月	東京書籍 E ネット 英語実践事例 シリーズ No.7	1学期の終了を迎えるにあたり、先生方が振り返りと新学期の準備をどのように進めるかに焦点を当てている。夏休みを活用し、授業改善に努めるための4つの方法を提案している。その中で、専門書や専門誌の熟読、教育記事の閲覧、授業動画の視聴、そして研修会・セミナーの参加を通じて、先生方が自身の指導スキルを向上させ、新学期に向けて準備を整えることが示唆されている。最後に、生徒に良い影響を与えるためには、教員自身の継続的な「探究活動」が不可欠であるとのメッセージが述べられている。
21	「教育実習生の指導を通しての学び」	単著	2022年6月	東京書籍 E ネット 英語実践事例 シリーズ No.6	教育実習に焦点を当て、指導教諭の役割を論じている。実習生への楽しさの伝達と、異なるアングルから生徒を見ることの重要性に触れ、指導教諭は授業のコピーではなく、実習生が理想とする授業を自ら考える支援が必要であると指摘している。教育実習を通じて、指導教諭と実習生が共に成長する姿勢が重要であると述べている。

22	「効率の良い授業準備と授業の「型」のつくりかた」	単著	2022年5月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.5	教師の多忙な校務においても、効率的かつ質の高い授業を提供するための3つの手順（①教材理解、②教材研究、③パワーポイント・プリントの準備）を提案している。また、授業の「型」を持ち、第二言語習得理論を踏まえた授業構成が重要であると指摘している。明示的解説は最小限に抑え、生徒とのインタラクションを重視し、授業中のポイント選定と絞り込みに注意を促すことが重要である。
23	「新年度の授業開きで大切にしたい5つの視点」	単著	2022年4月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.4	この論文では、学校現場で奮闘する先生方に向け、新学期の授業開きの重要性と成功のための5つの視点を提案している。先生方が生徒を引きつけ、信頼関係を築くための方法として、①先生の自己紹介、②教師と生徒・生徒同士の関係性構築、③英語力向上の授業方法説明、④明確な評価規準提示、⑤ロールモデル提示が挙げられる。これらの視点をもとに、実際の授業展開例が提供され、生徒の視線を集める工夫が説明されている。授業開きが成功すれば、生徒との信頼関係が築かれ、その後の授業展開にポジティブな影響があると論じている。
24	「仮定法の運用に焦点を当てた日本史×英語の教科横断型授業」	単著	2022年4月	啓林館ホームページ 授業実践記録	新学習指導要領において、教科横断的な資質・能力の育成が強調される中、本論文では、日本史の背景知識を英語の仮定法に結びつけた教科横断型授業モデルを提案している。授業では、4技能を統合した言語活動や日本史の背景知識クイズを通じて、生徒に英語の仮定法を活用させ、新紙幣の歴史的人物に関するディスカッションを促進した。生徒が主体的・対話的に学び、異なる教科の教員同士が協力する教科横断型の授業効果を報告している。
25	「「論理・表現」の授業で大切にしたい3つのこと」	単著	2022年3月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.3	学習指導要領の改訂により、高校の英語表現科は「論理・表現」に変わり、英語のアウトプット強化が目標となる。教師は文法指導から脱却し、(1)具体的な場面での指導、(2)相手への論理的伝達、(3)発信のための文法力の育成が必要。教材では、Model Dialogueを通じて具体的な場면을提示し、学習者が自ら表現力を養うスキルを身につける。授業の進め方に工夫が求められる。
26	「「総合的な探究の時間」で英語教師としてできること」	単著	2022年2月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.2	高校の「総合的な探究の時間」における英語教師の実践事例を報告している。教師は専門外の領域を指導する際、生徒に寄り添いながら探究を楽しむ姿勢が重要である。探究活動は3年間の流れで展開され、問いの設定から調査・分析・考察までを体系的に行った。生徒の学び変化を通じて、探究活動における教師の役割や生徒の成長について考察した。
27	「鳥取県「新しい学びの創造事業『主体的・対話的で深い学び』教員スキルアップ事業」の実践報告」	単著	2021年12月	東京書籍 E ネット 英語実践事例シリーズ No.1	本論文では、2021年に鳥取県立米子西高校で行われた「主体的・対話的で深い学び」の示範授業を報告している。授業の難しさとやりがい、3つのポイント、授業の題材とねらい、ハイライトを明らかにした。授業では、教科横断的な視点やアウトプット活動を通じて生徒の言語能力を育成した。

28	「言語習得の3要素を促す教科横断型授業の実践～主体的・対話的で深い学びの実現のために～」	単著	2021年11月	数研出版 『CHART NETWORK 96号』	新学習指導要領の理念を踏まえ、教科横断的な視点に焦点を当て、物理×英語および数学×英語の授業実践例を紹介する。具体的な例として、速さと速度、加速といった物理の概念や集合という数学の概念を英語と結びつけ、生徒に多面的・多角的な視点で物事を捉える力を育むアプローチが示されている。教科横断的な視点を持つことで、生徒が深い理解と興味を持ち、言語学習においても高次の認知能力を育む可能性が示唆されている。
29	「集合(set)の考え方をを用いた数学×英語の教科横断授業」	単著	2021年8月	啓林館ホームページ 授業実践記録	新学習指導要領の理念を踏まえ、教育課程全体を通じた教科横断的な取り組みが生徒の多面的・多角的な捉え方を育む重要性を強調している。具体的には、数学と英語を教科横断的に結びつけた授業実践例を提示している。この授業では、部分集合と後置修飾の構造を比較し、生徒に数学の記号と英語の表現における共通点を発見させる手法が取られた。
30	「授業アンケートに基づく授業改善の一考察」	単著	2021年5月	数研出版 『CHART NETWORK 94号』	授業アンケートでは、授業の実態と生徒の望みの乖離を知ることが大切である。アンケート結果の分析は意欲・理解・関心が重要であり、パワーポイント授業やタイミング改善など5つの方法が示される。特に、生徒との信頼関係構築が重視され、声かけや呼び方に配慮することが指摘される。授業アンケートは教師の成長の機会でもあり、生徒との信頼関係を築きながら授業の質を向上させる重要な手段とされる。
31	「物理×英語のCLIL・教科横断型授業」	単著	2021年4月	啓林館ホームページ 授業実践記録	本研究では、新学習指導要領に基づき、「教育課程全体を通じた取組」を促進するために、物理と英語のCLIL・教科横断型授業を提案している。具体的には、speedとvelocityの違いやaccelerationの関係をとり上げ、生徒に教科横断的な視点で物事を捉える力を養う。授業では導入からペアワーク活動、動画視聴、発音練習まで英語で行い、生徒は専門教科と英語を組み合わせた学習を体験。生徒の振り返りから、教科横断的な視点が英語学習に動機づけとなり、深い理解が得られたことが示唆された。
32	「教室での「マシュマロチャレンジ」を通して得た学びと今後の教育のあり方」	単著	2020年12月	啓林館ホームページ 授業実践記録	高校1年の「マシュマロチャレンジ」を通じて、チームワークやコミュニケーション能力を養う活動を実施し、生徒の深い学びを促進した。授業は教科書読解と実際の活動、TED talk 視聴と振り返りで構成され、生徒は対話的なリアルな体験を通じて深い理解を得た。これを通じて、学校でしか得られない対話的な学びの価値を強調し、オンラインとのバランスを検討する必要性を提案した。

33	「思考力・判断力・表現力を促す Writing 指導の工夫」	単著	2020年11月	数研出版 『CHART NETWORK 93号』	次期学習指導要領では、英語の「話すこと」において「話すこと [やり取り]」と「話すこと [発表]」が重要視されている。『Write to the Point』を使用した英作文授業では、Exercise A と B を組み合わせた構成で生徒が自己学習し、授業では誤文訂正や和文英訳の解説を行い、さらに発展的な Writing 活動を導入。グループでのエッセイライティングでは、生徒がテーマを選びながら主体的に深い学びを得る。新指導要領に則り、コミュニケーション力向上を促進した。
34	「『MY WAY English Communication II New Edition』－「思考力・判断力・表現力」を促す具体的指導例」	単著	2020年11月	三省堂ホームページ 授業レポートプラス	新学習指導要領において「知識および技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱が強調され、特に英語の「話すこと」において主体的・対話的で深い学びが求められている。しかし、知識と技能を「思考力、判断力、表現力等」に結びつける方法に課題があり、本稿では『MY WAY English Communication II New Edition』を使用した指導例を提示する。具体的な活動として、ピクトグラムを用いた CLIL を取り入れた活動や SDGs に絡めた環境問題の取り組みを挙げ、生徒の思考力や判断力、表現力を引き出す手法を提案する。これにより、新指導要領が目指す資質・能力の向上を促進し、英語教育においてリアルな社会への結びつきを強調する。
35	「SDGs を取り入れた英語プレゼンテーションの授業」	単著	2020年8月	数研出版 『CHART NETWORK 91号』	高等学校の英語授業において、英文の内容を理解し深めるための英語プレゼンテーションの実践例を報告している。生徒は SDGs に焦点を当て、関連したプロジェクト型学習を通じてリアルな社会と結びつけて深い学びを経験し、学習意欲の向上と社会的な変革に対応する力を育んでいる。
36	「家庭科×生物×英語の教科横断型授業」	単著	2020年4月	啓林館ホームページ 授業実践記録	高等学校の英語授業において、ユーグレナ（ミドリムシ）を取り上げた授業を行った。生徒はユーグレナクッキーを試食し、英語で感想を述べた後、家庭科と生物の観点から英語で学び、photosynthesis などの英単語を説明。Reading 活動後、ユーグレナを使った商品を英語で描写する Speaking 活動を行い、生徒の発話から深い学びが見られた。授業を通じて、内容と言語を同時に学ぶことが生徒の動機付けや理解を促進することが再確認された。
37	「主体的・対話的で深い学びを促す模擬国連を取り入れた授業」	単著	2019年9月	数研出版 『CHART NETWORK 89号』	2020年度の入試改革に伴い、大学入試は「思考力・判断力・表現力」を重視する方向へ変化。本論文では、模擬国連を授業に導入し、「異文化理解」の授業を基盤に、学力の3要素を育む方法を提案。具体的には、異文化間コミュニケーションの活動を通じて価値観や意見を構築し、会議準備を経て思考・判断・表現力を養う。模擬国連の取り組みは、「学力の3要素」を含んだ有効な教育活動として注目される。

38	「ELEMENT I を用いた CLIL 型授業（世界史×英語）」	単著	2019年4月	啓林館ホームページ 授業実践記録	近年注目を浴びる「内容言語統合学習法」（CLIL）に焦点を当てている。高校1年生を対象に、南アフリカの歴史と英語を統合した協働授業を実施した。教科内容と英語を同時に学び、学習者が深い理解へ導かれる方法を提案している。南アフリカの歴史的な国旗の変遷やアパルトヘイト制度に関する知識を、英語で学ぶことで学習者の英語スキル向上と歴史理解の促進を図った。授業後の生徒の振り返りから、学習の広がりや深まりが確認された。
39	「英語の仮定法と古文の反実仮想による教科横断授業」	単著	2018年4月	数研出版 『CHART NETWORK 86号』	古文と英語を組み合わせた授業を通じて、言語学習を機械的な暗記から理論的な理解へと促進すると指摘している。英語の「仮定法」と古典の「反実仮想」を比較し、言語構造の共通点・相違点をグループで対話。生徒に言語の普遍的な感情理解までを広げることを目指し、効果的な教科横断型アプローチを行った。
40	『ELEMENT I』を用いた生物×英語の教科横断型授業」	単著	2017年9月	啓林館ホームページ 授業実践記録	本研究では、言語をコミュニケーションと学習のツールと位置づけ、教科横断型の英語授業を生物学と結びつけて実践した。協働授業では、専門知識を英語で説明し合うことで深い学びを促進する。生物学の知識を1学期の日本語授業から引用し、2学期の英語授業で応用。教科の枠を超えて学ぶことで、生徒にとって知識が「つながる」瞬間を生み出し、主体的・対話的な深い学びを実現した。
41	「入試問題を用いた教科横断授業（生物×英語）」	単著	2006年3月	数研出版 『CHART NETWORK 83号』	21世紀のグローバル社会では、教養や英語力、異文化理解が必要不可欠であり、教科横断型の協働授業が重要である。本稿では、生物学と英語を結び付け、メンデルの遺伝法則やダーウィンの進化論を英語で学ぶ授業に焦点を当てている。教科横断的なアプローチで生物学と言語学を統合し、生徒の理解を促進することに成功した。
42	「セマンティック・マッピングと音読重視の授業」	単著	2024年1月	私学教育研究所 『平成17年度紀要』	英文テキストから内容をキーワードでマッピングする「セマンティック・マッピング」とチャンクごとの関係やつながりを意識した「フレーズ・リーディング」を用いて文の統語構造の理解を促進させる指導実践を論じている。